

やまぐちっ子 学力向上だより

第 1 0 号 H21.5.29
山口県教育庁義務教育課

「平成 2 1 年度全国学力・学習状況調査」が終了し 1 か月が経ちました。各学校では、調査の解答状況等を分析し、課題改善に向けた取組を始められた頃かと思います。

こうした取組を全教職員の共通理解のもと、学校全体で進めることが、実施要領に示されている調査の目的である、

全国学力・学習 状況調査の目的

各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

につながるのだと思います。

保護者や地域と の情報の共有

児童生徒の学力向上に向けては、学校での取組が大切であることはもちろんですが、具体的な課題や改善に向けた取組についての情報を家庭や地域の方々と共有し、家庭や地域と一体となって取組を進めることが重要です。

この度の調査の解答状況から見られる課題や改善に向けた取組を、これまでの取組とともに、学校だよりや諸会議を通じて、家庭や地域の方々へ情報提供することは、学校への信頼にもつながります。

では、どんなことに配慮し、どんなことを伝えればよいのでしょうか。学校の状況にもよりますが、一般的には、次のようなことが考えられます。

伝える際、配慮 すること

- 市町ごと、学校ごとの平均正答率のみが明らかとなり、そのことによって過度な競争や序列化につながることをないよう十分配慮する。
- 数値を公表する場合は、各地域や学校の課題を明確にするとともに、具体的改善方策につなげるために用いる。
- 個人が特定されることをないよう配慮する。

伝える内容として考えられるものは、次のような事柄です。

伝える内容

- 調査結果からみられる児童生徒の状況や課題
- 課題解決に向けた教育委員会や学校の取組方策
- 教育委員会や学校の具体的改善方策に基づき家庭や地域で取り組む内容 等

学校だより小学 校の例

次頁に、小学校での学校だよりの例を作成しました。学校の規模は 6 年生 8 5 人程度の在籍を想定しています。各学校で「全国学力・学習状況調査」の結果等を公表される際の参考になればと思います。

〇〇小学校 学校だより

～全国学力・学習状況調査を生かす～

H21.05.20
第〇号

平成21年4月21日、全国学力・学習状況調査を実施しました。

調査結果は、2学期始めに国から提供がありますが、課題改善に向けた取組をできるだけ早く進めるために、子どもたちの解答状況を分析し、課題改善のための具体的な取組を全教職員で検討しました。これまでの取組に加えながら、着実に進めてまいります。

子どもたちの学力向上には、学校での取組が重要であることは十分承知しておりますが、課題を共有し、学校、家庭、地域が一体となった取組を進めることも大切です。調査の状況、課題改善に向けた取組等をお知らせいたしますので、一層のご協力をお願いいたします。

調査の目的

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力向上に向けて、学力や学習の状況を把握し、課題改善に向けた取組を進めることなどが目的です。

本校の状況

6年生85人が取り組みました。調査後、子どもたちの解答をもとに、よくできている問題やあまりできていない問題等について、状況を確認しました。結果は次のとおりです。

(国語)

漢字の読み書き、はがきの宛名書き、話し合い活動での相手の立場や意図をとらえる問題（記号選択）等では、8割以上の子どもたちが理解しているが、ローマ字や自分の考えを整理して書くこと等はあまり定着が進んでいない。

(特徴的な事柄)

- 話し合い活動で相手の立場や意図をとらえる問題（記号選択）では、9割程度の正答率であり、多くの子どもたちが理解している。
- △8割以上の正答率があった漢字の読み書きの中で、3年生で学習する「運ぶ」を書いた児童は7割程度とやや低い状況である。
- △4年生で学習するローマ字の定着が不十分である。
- △条件に合わせて自分の考えを書く問題では、字数が多くなると正答率が2割程度と低い状況である。

(算数)

3・4年生を中心に学習する計算問題や分度器の使い方、図形の性質については、8割以上の子どもたちが理解しているが、数直線や百分率、式や言葉を使って説明すること等は定着が不十分である。

(特徴的な事柄)

- 千円札の横の長さを考える問題は、9割程度の正答率であり、多くの子どもたちが理解している。
- △加法、除法等の計算は9割程度の正答率であるが、+、-、×、÷を混合した計算になると7割程度の正答率となる。
- △5年生で学習する百分率の意味については、正答率が5割程度と低い状況である。
- △グラフを読み取り、言葉や式を使って理由を書く問題については、2割程度の正答率であり、考えを適切に表すことが不十分である。

このような状況から、本校の子どもたちは、基礎的・基本的な学習内容は、おおむね理解していますが、特に次の2点については、課題があると考えられます。

- ① 自分の考えを整理して書くことが苦手である。
- ② 6年までに学習した内容の定着が不十分な面があり、上手く活用できていない。

これらの課題を改善するために、学校では次の取組を充実します。

今後の取組

課題①に対応 自分の考えをもち、整理して書くことができるようにするために

○朝学習（8時20分から8時35分）の内容の見直し

これまでは各学級で内容を決めていましたが、学校全体で、週2回、書く活動を取り入れます。その際、友達の話聞いて思ったこと、新聞記事を見て考えたことなど、学年に応じて題材を提示します。

また、学年に応じて、低学年では60字、中学年では80字、高学年では100字程度の字数制限を設けるなどし、その中で考えをまとめられるよう指導していきます。

課題②に対応 学習した内容が確実に定着し、活用できるようにするために

○定期的な学習内容定着状況の確認

今回の調査では、3年生や4年生の学習内容が定着していないなどの課題が見られますので、単元の始まりには、その単元に関する前学年までの学習内容を確認し、定着をしていない場合には、補充学習を行うなどの取組を進めます。

また、単元終了後、学期末、学年末、学年始めに、評価問題等を通して、学習状況を確認できるよう取り組みます。

課題解決に向けた取組を支えるために

○家庭学習（宿題）の見直し

これまで、学年に応じ目安の時間を示していましたが、今後、内容についても、基礎的・基本的な内容と合わせて、「考えてみたい」、「考えを書きたい」という思いをもてる課題を提示していきます。

例えば、全校で取り組んでいる日記指導の中で、話題のニュースを取り上げたり、国語で学習した表現方法を例示したりしていきます。

家庭へのお願い

学校でも子どもたちの学習状況を確認していきますが、ご家庭においても、お子様の学校での取組、家庭学習の様子等を見守っていただきますよう、お願いいたします。高学年になるにつれ、あたたかく支える気持ち大切です。

学校、家庭、地域が一体となって取組を進めていけるよう、ご協力をお願いします。

